

東日本大震災からの復興へ

—— 被災企業のゼロからのスタート ——

中小機構では、東日本大震災により被害を受けた中小企業等の早期の事業活動の再開のため、自治体と協力して仮設店舗、仮設工場等の施設を整備しています。



新地町駒ヶ嶺地区仮設事務所・倉庫

所在地：福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺字今神西1番15

入居者：津波被害を受けた駒ヶ嶺地区の被災事業者6社。金属研磨、日用雑貨、学校教材、機械器具等



相馬ブレード・代表取締役社長 藤田 修 様

(有)相馬ブレード (金属研磨業)

「ここにいてよかったとみんなに言わせたいです」

私自身、震災以前は企業の建前通り利益本位、利益追求の姿勢でやってきましたが、今はこの地域と共に発展していきたいと考えようになりました。5年先、10年先「ここにいてよかった」とみんなに言わせたいです。

従業員の雇用を生み出し、人本位にやっていくことが企業の責任と思い、震災前より従業員を5名増やしました。本社兼事務所として施設を貸していただきまして、新地町と中小機構に感謝しています。

(株)山口特殊工業 (機械器具設置業)

「ここ新地町から離れたくないです」

40年近くためていた物も、仕事の道具も津波に流されて、一つもなくなってしまいました。仮施設入居の話をしていただいた時、「待ち遠しくて早く入居したい。こんなひどい震災、津波の中で助かった命だもの、とにかく頑張っていこう。」と思いました。仮設事務所です仕事が始まることを、従業員もみんな喜んでくれました。いずれは、ちっちゃな工場でもできたらいいなと思っています。



山口特殊工業・代表取締役 佐藤 国雄 様



相双教育用品・代表取締役 吉田 秀夫 様

(株)相双教育用品 (学校教材販売業)

「復興は未来を託す子どもから」

双葉郡浪江町は原発の影響をまろに受け、避難指示で車2台で逃げただけで、何も持ち出せませんでした。現在も立ち入りできません。とりあえず、事務所を構えることができ、安堵していますが、原発でまだ見通しがたない状況なので、引き続き入居をお願いします。

これからの復興は子どもが主になっていくと思いますし、地元の子どもたちを育てていきたいという強い思いで、貢献していきたいと思っています。

中小機構ホームページに個別企業への詳細な取材内容を掲載しております。

<http://www.smrj.go.jp/>

(取材日：平成23年12月13日)